

1～3月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

- 開催中～2月27日(日)／ミニ企画展「牧野コレクション 植物図の世界-桜図譜より」
- 2月5日(土)～27日(日)／ラン展
- 3月19日(土)～4月23日(土)／春のガーデンツアー ※期間中の土日
- 3月19日(土)～5月15日(日)／春のフラワーショー
- 3月25日(金)～27日(日)／桜の宵

▼教室

- 1月16日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
- 1月22日(土)／くらしの植物教室
- 2月20日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
- 3月6日(日)／ハーブの教室
- 3月12日(土)／ランの育て方教室
- 3月13日(日)／子ども自然体験教室
- 毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
- 毎月第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会

【教室・イベントの申込方法】

当園ホームページのイベント・植物教室ページ、またはFaxからお申込みください。入園窓口でも直接お申込みいただけます。

- 申込先 ホームページwww.makino.or.jp Fax088-882-8635
- 申込開始日 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)

▼マキノ・ボタニカルクラブ

- 1月29日(土)／ランの魅力、教えます。
【会場】高知県立牧野植物園
- 2月26日(土)／本で巡る世界の植物からの贈りもの「コーヒーとカカオ」
【会場】高知 蔦屋書店

【マキノ・ボタニカルクラブ申込方法】

当園ホームページのイベントの植物教室ページからお申込みください。※電話・FAX・入園窓口、および各会場での申込受付は行っていません。

- 申込先 ホームページwww.makino.or.jp
- 申込開始日 開催前月の第2水曜日 9:00～(先着受付順)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後、企画展・イベント・教室などの日程や内容が変更または中止になる場合があります。最新情報はホームページなどでお知らせしますのでご確認ください。

Information

牧野植物園からのお知らせ

ホームページからの解説申込が可能に

今まで電話やFAXなどでお申し込みいただいていた園内解説が、このたび、ホームページからもお申し込みいただけるようになりました。見ごろの植物や園の見どころなど、ご要望に応じてご案内します。観光ツアーや会社の研修、地域で活動されている団体、植物や自然、歴史などに関心をお持ちの方々のグループなど、5名さまから受け付け、20名さままでを1グループとしてご案内させていただきます。お気軽にご相談ください。

解説希望の方は希望日の2週間前までにお申し込みください。また、スケジュールの都合上、お受けできない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

(松本孝)



Shop information

ショップからのお知らせ

ボタニカルショップnonoca

令和4(2022)年、牧野博士は生誕160年を迎えます。これを記念し牧野博士が描いた植物図を使ったカレンダーが登場。正確、精緻、かつ美しい博士の植物図をご自宅で鑑賞しませんか。



牧野富太郎 植物図12ヶ月 1,100円(税込)
オンラインショップでも販売中 shop.nonoca.in

観光バス「MY遊バス」のご案内

- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口で提示すると、入園料が100円引きとなります。
- 料金／[五台山一日券](高知駅⇄五台山)
大人(中学生以上)600円 子ども(小学生)300円
- MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株) TEL 088-833-7171
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会 TEL 088-823-1434

高知県立牧野植物園ご利用案内

【開園時間】9:00～17:00 [休園日]年末年始(12/27～1/1)
【メンテナンス休園日】R4/1/31、6/27、9/26、11/28
【入園料】一般730円(高校生以下無料)
団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円

※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

【交通案内】

はりまや橋から車で約20分。
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分。
高知自動車道「高知JCT」経由、東部自動車道「高知南IC」から約15分。
高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分。
駐車場無料(普通車183台、バス8台)。

※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください。

高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

【特典】※会員ご本人様の特典です。

- ①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
- ②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
- ③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
- ④レストラン、ショップ利用時にカード提示で、5%の割引が受けられます。(カフェでは適用されません。書籍・植物・酒類は割引対象外となります。)

【会費】普通会員/年額 4,000円 賛助会員/年額10,000円

【入会のお申し込み・お問い合わせ】088-882-2601 友の会担当まで



牧野植物園ロゴマーク:バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。早春に小さな白い花を咲かせるこの植物は、晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい花でした。

高知県立牧野植物園だより No.88 令和3(2021)年12月21日発行

【編集・発行】公益財団法人 高知県牧野記念財団

〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園

Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635

【印刷】有限会社 西村膳写堂

www.makino.or.jp



高知県立 牧野植物園だより



ホオノカワシダ [オシダ科]

Dryopteris shikokiana
(Makino) C. Chr.

本州(神奈川県以西)・四国・九州・屋久島、中国(南部)に分布する常緑性のシダ。葉柄には濃褐色の鱗片がやや密につき、孢子嚢には包膜がない。牧野富太郎博士が明治20(1887)年に高知県須崎市朴の川山で発見し、明治32(1899)年に新種として発表した。現在はオシダ属とされる。和名は発見地に因む。

Report

安芸市伊尾木洞での「マキノ・ボタニカルクラブ」にて、シダについて解説する研究員と参加者 (2021年)



植物研究のアウトリーチ活動

開かれた植物研究を目指して

① アウトリーチ活動

アウトリーチ活動とは、地域社会への奉仕活動や公共施設などにおける対外的な活動のこと。学校への出前授業、外部での講座や講演会、移動博物館や移動美術館などがこれにあたります。また、既存サービスの穴を埋め、その範囲や内容の拡充を目指す場合もあります。

植物研究課では、平成31(2019)年に「サイエンスコンテンツ普及事業」が開始しました。さまざまな活動を通じて蓄積してきた研究成果を、園内外で実施する講座や展示などに活用し、これまで以上に積極的な県民への還元を目的としたこの事業を中心に、アウトリーチ活動を推進しています。

では、なぜ「アウトリーチ活動」をはじめたに至ったのか。そこにはこんな理由があったのです。



牧野植物園 五台山ロビーで開催したミニ展示「調べようタンポポ」(2020年)

② やっていることが見えない？!

平成11(1999)年の11月、牧野植物園はリニューアルオープンにともない、本格的な植物研究部門を設けました。平成16(2004)年には資源植物研究センターを設置。ミャンマー連邦共和国やソロモン諸島での植物探査や植物多様性の解析、薬用植物における代替生薬の発掘など海外での活動に注力する一方、高知県では野生植物の調査や保全活動、『高知県植物誌』編纂事業、中山間地域での産業振興を目標とした薬用植物栽培事業への参入、外来植物調査、これらの取組みによって収集された標本の管理、高知大学と連携した教育の強化に携わるなど、地域に貢献しながら「世界に通用する植物園を目指す」という方針の下、約20年間、さまざまな活動に邁進してきました。

ところがそんな中、「研究員は何の研究をしているの?」「高知県の産業振興って例えば何をしているの?」といったご意見や、研究員は来園者の皆さまと比較的接する機会が少ないからか、中には「研究部門は近寄りやすいイメージ」といった声も聞こえてきました。

これまで、研究活動を広く知っていただくため、関連する情報をマスコミに提供し、園内外での講演会や展示などを通じて活動で得た知見の周知に努めてきただけに、こうしたご意見をいただいたことがきっかけとなり、これまでの植物研究課の在り方を改めて見つめ直すこととなりました。

③ そして新たな試みへ

当園の大きな魅力である園地の植栽やさまざまな催し、これらは来園者の皆さまに直接提供することができる、職員の日々の努力の賜物です。しかし研究活動はその性質上、成果が来園者の皆さまに直結しにくいという点は否めません。データ収集から結果までに数年を要するというケースも少なくないのです。そのため、すべての研究成果や結果を絶えず公表しつづけていくことは困難だとしても、牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、収集した資料や情報を、可能な範囲で植物の教育普及に活用していきたいという思いは以前から変わりません。研究活動とそこで得た成果や知財を、これまで以上にわかりやすい内容で提供し、身近な情報として触れてもらうことはできないかと模索し、はじめたのが「サイエンスコンテンツ普及事業」をはじめとするアウトリーチ活動でした。

植物調査ボランティア向け講座として定評のある「分類学セミナー」、市民と協働で実施し成果を挙げている「外来植物防除活動」や「タンポポ調査」といった既存の活動に加え、新たにお客さまと研究員が直接対話できる場として設けたワークショップ「マキノ・ボタニカルクラブ」や、研究活動の成果や進捗状況を報告するためのミニ展示、過去の企画展を実施場所や対象にあわせて再編した巡回展を実施。さらに研究員などが出演する動画配信を導入しました。



高知 蔦屋書店で開催した「マキノ・ボタニカルクラブ」(2019年)

④ アウトリーチ活動の今後

上記の活動に加え、令和4(2022)年度に完成予定の新研究棟には、子どもたちが実験に参加できるキッズラボが設けられるなど、さらなるアウトリーチ活動の場を拡げていく予定です。

植物研究部門を設置して今年で22年。例えるなら、人が成人し社会に出ていく年ごろ。まだはじまったばかりのアウトリーチ活動ですが、今後も社会に貢献できるよう、よりよい情報提供に努めながら長く継続していきたいと考えています。

残された問題が一つありました。「研究部門は近寄りやすい」。正直、植物研究課の職員はイメージに反してフレンドリーです。植物について色々なことを多くの皆さんにお伝えしたいと思っていますので、ワークショップなどで遠慮無く話しかけてください。きっとイメージは払拭されるはずです! (岡林里佳)

※植物研究課のアウトリーチ活動の詳細は、当園のホームページでも紹介していますので、そちらもあわせてご覧ください。

News

高知県の中山間地域の振興に寄与

～薬用植物の試験栽培による地域振興～

公益財団法人高知県牧野記念財団(以下「牧野記念財団」)は、平成28(2016)年から、小林製薬株式会社(本社:大阪市、以下「小林製薬」)との間で薬用植物に関する共同研究を行っています。今般この関連事業として大豊町で試験栽培を行うこととなり、本年9月22日(水)に、栽培を担う東豊永集落活動センターとの三者間で調印式を大豊町長立会いのもと、同町東豊永公民館で執り行いました。

薬用植物の栽培には、冷涼な気候が求められることが多いことから、標高が高い嶺北地域が適地と判断されたところです。今回の取り組みは、生薬の試験栽培だけに留まらず、中山間地域での担い手不足に伴う耕作放棄地への対応や、集落活動センターの活性化など、高知県が進める中山間対策に大きく貢献できるものと期待しています。今後、薬用植物を使った薬膳料理の提供や、植物の見学ツアーなど、観光振興にも期待を膨らませています。大豊町発の取り組みが、県内のほかの地域に波及することを願っています。調印式の後、報告のために濱田省司高知県知事を訪問しました。



東豊永集落活動センターで栽培予定の5種類の薬用植物



高知県知事表敬訪問。左から、尾下氏、大石氏、氏原氏、濱田知事、川原氏、山根氏、高杉氏



左から、小林製薬株式会社 中央研究所所長 高杉正史氏、同社専務取締役 山根聡氏、大豊町役場東豊永集落活動センター推進協議会 会長 氏原学氏、公益財団法人高知県牧野記念財団 理事長 川原信夫氏

関係者からのコメント

● 小林製薬株式会社 専務取締役 山根聡氏

弊社と牧野植物園様とは、5年前の2016年より「植物資源に関する共同研究契約」を締結し、協働して植物資源の栽培と研究開発に取り組んでまいりました。今回の薬用植物の試験栽培では新たに東豊永地区の皆様とも連携し、活動をより力強く推進することになります。本連携が生薬・漢方事業での新製品開発に繋がることはもとより、県内地域振興の一助になることを嬉しく思っております。

● 東豊永集落活動センター推進協議会 会長 氏原学氏

薬用植物試験栽培は、大豊町にとって明るい話題として受け止められ、「地域の持続」という大きな課題に取り組んでいる住民に希望や勇気を与えてくれると思っています。この事業は、大豊町からはじまる「笑顔の連携事業」ではないでしょうか。地域にとって「希望の灯」となれるよう、頑張ります。東豊永地域に目を向け、足を運んでいただいた小林製薬と牧野植物園に深く感謝しています。

● 大豊町長 大石雅夫氏

東豊永地区は、当町の中でも積極的な地域活動が行われている地区で、今回の生薬試験栽培が大豊町の地域活性化に向けた大きな一歩となり、二歩、三歩と発展してよりよい成果をあげられる事を大いに期待しております。

● 高知県中山間振興・交通部部長 尾下次氏

小林製薬株式会社、大豊町の東豊永集落活動センター、牧野植物園の三者協定に基づく薬用植物の試験栽培がスタートしました。この取り組みは、中山間地域の気候や風土を生かした大変有意義なものであり、試験栽培が円滑に進み、県内の各地域にも広がっていくことを大いに期待しています。

● 公益財団法人高知県牧野記念財団 理事長 川原信夫

高知県牧野記念財団では、現在までに集積された各種薬用植物に関する経験、知識を生かし、候補薬用植物の種苗提供並びに試験栽培に関連する技術指導、情報提供を通じて本事業に貢献してまいります。本事業の進捗により、大豊町東豊永地域に新たな薬用植物栽培拠点が構築されると共に中山間地域振興のモデルケースとして、地域社会の活性化に大きく寄与するものと期待しております。

Information

新研究棟建築と 駐車場改修工事に着工

牧野植物園磨き上げ工事本格化

58年間にわたって牧野植物園を見守り続けた資源植物研究センターの解体が9月末で完了しました。

12月1日(水)から新研究棟建築工事が着工し、12月8日(水)に更地になった資源植物研究センターの跡地で起工式が行われました。

起工式は竹林寺僧侶による仏式で実施し、読経、願文祈願の後に参加者が焼香をしました。その後、設計者の株式会社細木建築研究所 細木茂所長による刈り初め、施主である高知県を代表して林業振興・環境部自然共生課松尾文昭課長が鍬入れ、施工主の岸之上・旭ブロック特定建設工事共同企業体を代表し株式会社岸之上工務店 岸之上憲一代表取締役社長がすき入れを行いました。

新研究棟は、木造切妻造りの大屋根、漆喰洗い出し壁やウッドデッキ床とすることで牧野富太郎記念館や竹林寺とのデザイン連

起工式で高知県知事の代理としてあいさつを述べる松尾課長



携を図ります。また、外壁は石積み構造で、歴史ある南園の景観や五台山の風景と調和のとれたものとします。最上階の3階は広々とした空間を作るとともに、眺望の良いレストランやショップを設けます。

新研究棟建築工事と同時に、かねてから課題となっていた駐車場不足を解消するため、駐車場の改修工事を行います。現在の駐車スペースの利用の仕方を全面的に見直し、効率的な土地利用をすることで駐車台数を増加させる計画です。改修工事の際にはお客さまにご利用いただける駐車スペースが大きく減り、大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和5(2023)年の春には新しい研究棟と駐車場を完成させ、たくさんの来園者をお迎えできるよう準備していきます。

(山本利彦)

Information

「野生植物分布調査」 はじまる

人が育ってつながる調査

高知県では、今年から各市町村の植物を順次調査していく「野生植物分布調査」がはじまりました。

平成21(2009)年に発行した高知県植物誌の編纂事業では、高知県を東部4ブロック、中部9ブロック、西部6ブロックに分けて、各ブロックで標本を採集したため、各市町村単位の分布調査は



野外での調査兼研修会で職員が解説しているようす

はじめての取り組みです。また、高知県植物誌発行から12年が経過し、分類が変わったり新しいことがわかったり、見つかった県新産の在来種は15種類を超えました。

植物園で開催された分類学セミナーのようす



この「野生植物分布調査」では、主な調査範囲の市町村を毎年変え、最終的に34市町村の各植物リストをまとめることが目標です。植物調査を地域の人々と専門職員が共同で行うことで地元の植物を知る人材を育成でき、それは高知県の自然環境を守っていくことにもつながります。初心者の方でも少しずつ学んでいけるよう、いろいろな地域で調査兼研修会を開催しています。調査を通じていろいろな人とつながる機会になり、新しいことを年齢関係なく学べます。また、調査で集められた標本は、現状を知る資料となるだけでなく、植物園の標本庫で大切に管理され、100年後の未来の人たちにとっても研究や勉強のために有益な資料となるでしょう。皆さんもぜひ調査にご参加、ご協力ください。

(前田綾子)

News

県政150年記念植樹

今年(令和3年)は、明治4年7月14日の廃藩置県から150年の節目となる年です。この記念の年に、県内ではさまざまな記念イベントが開催され、当園では11月23日(火・祝)に「魚梁瀬杉」の植樹式が行われました。濱田省司高知県知事、森田英二高知県議会議長と川原信夫園長により、ふむふむ広場のまなびの野原に植樹されました。

日本固有種のスギの中でも、特に高知県東部魚梁瀬地域に自生するスギは古くから「魚梁瀬杉」とよばれています。材のきめが細やかで木目が美しいことから建築用材として珍重されてきたもので、旧藩時代には皇居、大阪城、二条城、江戸城などの材として用いられたともいわれています。

当園にお越しになる際には、日々成長し続ける「魚梁瀬杉」をご覧になりながら、郷土のさらなる発展にも思いを及ぼしていただければと思っています。

(濱口宗弘)



濱田高知県知事(中央)、森田高知県議会議長(左)、川原園長

Info

第16回ラン展 温室美術館 ～ようこそ、アートなランの世界へ～

令和4(2022)年2月5日(土)から27日(日)まで、南園 温室にて恒例のラン展を開催します。温室内の一方通行や換気など、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、今回は、ラン科植物を美術品に見立てた展示に挑戦、色彩と絵画のコーナーに分け温室を彩ります。

色彩のテーマでは、「赤と黒」「青と紫」「黄と橙」の3つのコーナーを設け、それぞれの色をイメージした装飾とランとの調和をご観賞いただけます。絵画をイメージしたコーナーでは、額縁の装飾に妖しい魅力のパフィオベディウム属、ジャングルエリアを背景に珍しい原種や、花のかたちが動物のように見える個



美しい黒い花被片をもつフレッドクラークアアラ・ジェムストーンズ

性的なランをご覧いただけます。高知県内で生産されている華麗な大鉢のランのコーナーも見どころの一つです。

この冬、ランを主役にした当園の「温室美術館」へぜひ、お越しください。

(丹羽誠一)

Info

ミニ企画展 「牧野コレクション 植物図の世界」開催中

牧野富太郎博士の蔵書がご遺族から高知県に寄贈されたことを契機に、当園に設立された「牧野文庫」。ここには博士の描いた植物図や手紙、遺品類を含め約6万点を収蔵しています。また、分類研究の中核となる「標本庫」には32万点を超える腊葉(押し葉)標本が収蔵されています。これら当園が持つ貴重な資料を、各テーマに沿って紹介する企画展「牧野コレクション」がスタートしました。



三好学『櫻花図譜』大正10(1921)年 芸艸堂

第1弾は、来る令和4(2022)年4月24日に生誕160年を迎える牧野博士のコレクションから、桜好きと知られる博士が収集した桜図譜や桜への一言をご紹介します。本展では、博士が信頼をおいた山田壽雄画伯が描いた『桜の図譜』や、桜博士として知られる三好学博士が著した『櫻花図譜』の彩色図を、桜の腊葉標本と見比べてご鑑賞いただけます。

桜の開花にはまだ少し早い時季ですが、一足お先に桜を楽しんでみませんか?

(藤川和美)

News

Makino original blend tea コウゾを発売

当園のオリジナル商品 Makino original blend tea(製造/トトレ株式会社)に、「牧野博士ゆかりの植物」「Kampo Taste」に次ぐ新シリーズ「Satoyama」が誕生しました。自然の恵みと日々の暮らしが織りなす里山の植物をテーマにしています。



オンラインでも販売中 shop.nonoca.in

その第1弾として、10月1日(金)に、土佐和紙の主な原料として知られるコウゾを使ったブレンドKōzo(コウゾ)を発売しました。秋には期間限定で展示館カフェにてブレンドティーを提供しご好評をいただきました。

現在ブレンドティーはレストランでご賞味いただけます。園内のふむふむ広場でコウゾの園芸品種をご観賞後、味わってみてはいかがでしょうか。ショップではお持ち帰り用もご用意しています。土佐の里山を彷彿とさせるまろやかな味わいをぜひお楽しみください。

(楠山壽香)

見ごろの
花だよりVol.39
Flowers in season伝統園芸植物
「百両金」

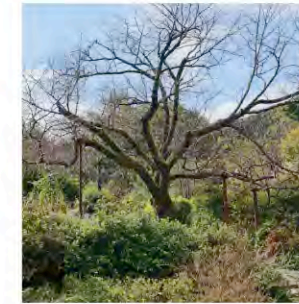
百両金は、鎌倉時代にはすでに地方の豪族たちが栽培していたと考えられています。冬に果実が鮮紅色に色付くことから、縁起のよい植物として親しまれていました。自らの国もとで栽培されていたそのころの古い品種には「伊達錦」「駿河」といったような大名の名字や国名が付けられました。江戸時代に入ると葉芸のさまざまな変化が目されるようになります。斑入りのもの、よじれたり巻いたりするものなど、千変万化といわれ、小判のような丸い葉が両手を上げたように展葉する芸である「小判巻き上げ」や「枇杷葉」「上巻」「萌黄」などというように、葉のかたちや色の特徴を品種名としてよぶようになります。果実の色や幹の色も観賞の対象になり、「赤木」「紫木」などとよばれ、「赤木国光」や「紫柿葉錦」のように名前が付けられています。また、この木を親木にすると色々な変わりものが出てくるという意味で、「八幡化」「百種」という名前が付いているものもあります。

品種の姿を説明する呼び名ではありませんが、風情のある名が付けられ、先人の名付けのセンスには頭が下がります。南園 寒蘭センターで、1月に万両、紫金牛とともに展示します。
(福川直人)



ゆったりとうねりのある葉形の「鳳凰」

園地のできごと

Vol.39
The gardening
section's news‘仙台屋’に
手を添えて

支柱を取り付けた‘仙台屋’

南園に‘仙台屋’という当園でも古株の大きな桜があり、春には蕾や花卉の縁の色が濃く美しい大輪の花を咲かせます。昭和39(1964)年に植栽してから枝を大きく伸ばしながら立派に成長し、今や毎年多くの人がこの桜の開花を待ちわびるような、当園を代表する樹木の一つです。これまでに幾度も台風により太い枝が折れるなどの被害を受け、また踏圧による根系へのダメージに見舞われ、近年樹勢の衰退がみられながらも懸命に花を咲かせてくれています。私たち職員も、踏圧を軽減するためにウッドデッキを敷き、適切に枯損枝を剪定・処置をし、土壤改良や施肥、病害虫の防除などを行い、樹勢回復に努めています。

今年9月には、横に長く張り、花や葉の時期に大きくなっていた太い枝を支えるために支柱を取り付けました。支柱は‘仙台屋’の樹皮の色にあわせて暗色系の防腐処理を施したヒノキ丸太を用い、これをT字に組んで頬杖支柱としました。‘仙台屋’のほっと一息が聞こえるようです。
(中野善廣)

植物の
「なぜ？」Vol.39
Plants' Q and AQ | 植物の葉や茎が煤を被ったように
黒くなるのはどうして？

A | それはすす病菌というカビが増殖したからです。

先日、お客さまから次のような質問を受けました。「庭に植えてあるゲッケイジュの葉が黒くなっています。病気でしょうか。どうしたらよいですか?」。この葉が黒くなる症状は、糸状菌(カビ)の一種であるすす病菌が増殖するために起こります。植物につくアブラムシやコナジラミ、カイガラムシなどの吸汁性害虫は、植物の汁を吸いアミノ酸などを栄養分として吸収し、糖分を排泄します。この葉に付着した糖分の高い排泄物に菌が増殖することで発生しているのです。特に果樹や花木、果菜類などで多く見られます。植物に直接寄生する病原菌ではなく、汚れが葉や茎に付着しているような状態であるため、すぐに植物が枯れたりすることはありませんが、光合成ができずに弱ることがあります。また、見栄えが悪くなるため、果実や切り花など商品として販売する場合は価値が下がります。人体への影響はなく、体に付いても洗い流せば問題ありませんが、口に入れたり大量に吸い込んだりしないよう気を付けましょう。

では、すす病が発生した場合、どうすればよいでしょうか。対処

法は、付着したカビを落とすことと原因となる害虫を防除することです。発生初期であれば、黒くなった葉を取り除いたり、ブラシや布巾で落としたりすればよいのですが、広がってしまうとそうはいきません。軽く拭くぐらいでは簡単に落とすことができないため、症状がひどい場合には思い切って剪定することも一つの対処方法となります。薬剤の使用に抵抗を感じる方もいますが、殺菌剤や殺虫剤の適切な使用も効果的です。やはり大事なものは予防と早期発見!育てている植物のようすを、毎日ちょっと観察してみてください。毎日ちょっと観察してみてください。

(末岡昭宣)

身近な植物を
知るVol.42
Plants close to us

ウメ

[バラ科]

Prunus mume Siebold et Zucc.

1年で最も寒くなる1月下旬から2月上旬を過ぎると、日本を代表する花の一つ、ウメが咲きはじめます。ウメは中国が原産地とされ、日本には弥生時代に伝わり、食用・観賞用として利用され長らく伝統文化を支えてきました。

100種以上にのぼる園芸品種が知られ、原種に近いものを「野梅系」とよび、これに加えてスモモと交雑した「李系」とアンズと交雑した「杏系」があり、それぞれに花や実、枝ぶりに変異があります。これらをどのように分類するかは諸説あり、今後遺伝子の情報などを用いた科学的分類が確立することが望まれます。

ウメの果実は生で食べると毒性を持ち、これは元々無毒のアミグダリンが体内で分解されて毒性が強い青酸になるためです。ウメに限らず、モモやビワ、ブルーベリー、サクランボなどの生の種子にはアミグダリンが多く含まれているので、食べないように注意が必要です。
(堀清鷹)



Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.42副園長
川村雅計のおすすめ超アナログも
捨てたもんじゃない!

当園は高知市五台山の山頂付近に位置し、多くの方は自家用車でのご来園で、ご不便をおかけしています。かつては、路線バスもありましたが、利用者が少なく路線廃止となり、現在、自家用車など以外のアクセスは観光周遊バス「MY遊バス」のみとなっています。このバスを利用してご来園いただいた方が、高知市内などへお帰りになる際、「乗りたい便はもう通過したのだろうか、このままバス停で待っていていいのだろうか」と、山の上でほかの交通手段のない中、不安をなくすために考案されたのが、超アナログの「通過案内」です。通過してしまったバスを待ち続けたため、JRや航空機に乗り遅れた、といったこともないよう、雨の日もバスの運転手さんがバス停で下車し、札を裏返してくれています。

当園にお越しの際は、「あったか高知」を最も身近に感じることできるMYバス停(正門前と南門前)を一度ご覧になってみてください。きっとほっこりすると思います。



通過する際に札を裏返す「通過案内」